日本の難民受け入れ

―シリア難民の事例から考える―

日時：2015年10月20日(火)14:30～16:00
場所：B212

講演内容：トルコの海岸でシリア難民男児の遺体が見つかるという衝撃的なニュースを目にされた方も多いと思います。他方、9/15には、日本の難民認定制度の運用の見直しが発表され、制度を悪用する難民の在留を許可しないなどの内容が盛り込まれました。
日本に来ている難民は、どのような人たちなのでしょうか。また、日本の難民制度は、どこに向かおうとしているのでしょうか。
日本の難民情勢について、現場での経験を交えて事例を挙げながら、お話させていただき、皆様と日本の難民受け入れについて議論したいと思います。

講演者プロフィール：羽田野真帆（NPO法人名古屋難民支援コーディネーター）2010年県大スペイン学科卒業。岐阜県可児市出身、小学生の時に親の仕事の関係で渡米し、3年間現地校に通う中で、パレスチナ出身の友人もいた。その体験から、将来難民支援を仕事にしたいと考えていたが、日本にも難民が来ていることは、県大生になってから知る。それ以降、県大祭で難民に関する講演会や展示会の開催、ボランティアで難民対象の日本語教室での活動、難民認定手続きのための難民と弁護士の打合せの通訳、立証資料の翻訳などに関わる。東海地域で難民支援にもう少し携わりたいと考えていた2012年に、名古屋難民支援室開設の話を聞き応募、現在に至る。